第4章

事例編

(1) 千葉県:

─手紙からひもとく─ 保育所における子育で支援

柏さかさい保育園園長 中山 勲

1. プロローグ

私は平成24年度12月号の園だよりに次のような言葉を書きました。 これが、社会福祉法人童心会柏さかさい保育園のある物語の始まりでした。

「ある国の諺"3歳までの習慣は…」

ある国の諺に "3歳までの習慣は、80歳まで続く"という言葉があるそうです。 それでは柏さかさい保育園の3歳までの乳児保育の目的(習慣づくり) の中で大切にしているものは何だと思いますか?

それは食事、運動、睡眠、排泄、笑顔、挨拶などの習慣を身につけさせる ことと、「五感を刺激する生活」をくり返すことです。

それが、「なんだろう、なぜだろう、どうなっているのだろう」という 「不思議ごころ」を芽生えさせ、それを大切にさせることが「ほんとうの賢さ」や 「ほんとうの知力」を育てることにつながると教え、保育の目的としているのです。

即ち、探索行動(経験したことのない新しい刺激や環境に対して 注意を向け、接近しそれが何であるか探ろうとする生体の活動) を通して人間は、新しい自分を見つけ、自分作りを続けていくのです。

私たちが、平成23年度日本保育協会から発表した 「子どもが育ち 親も育つ 地域がつながる 子育て支援」 〜地域における子育て支援に関する調査研究報告書〜 に書いたように、現代社会は「多様化する家族の形態」を生んでいます。

特に高年齢出産、少子化、産後うつ、虐待、離婚率の増加、 家族機能不全(家庭内暴力、父親不在)、子育ての孤立化や負担感の増大 などのケースが数多く見られます。

こうした悩みをかかえたお母さんたちが、 子育て支援センター「まことちゃん」のお家に遊びに来てくれています。

「子育てご苦労様でした!」

先月の柏さかさい保育園の子育て支援センター「まことちゃん」の家で主催した10月29日 (月)の映画会に、30組位の人たちが集いました。

私は、この映画会に参加して下さった、地域の子育て仲間にご挨拶をさせて頂きました。

「皆さん、今日まで子育てご苦労さまでした。皆さんのお子さんに対するやさしさは、良い子の育ちに間違いなく届きますから、頑張って下さい。」とお願いしました。

そして映画会やお茶会が終わり、担当の職員から報告が入りました。

「園長先生のお話を聞いて何組かのお母さんたちが泣いていました。『子育てご苦労さまでした』 と始めて言われたと言って、また、泣くんですよ。」と言うのです。

私たちの調査でも、生れてから1ヶ月~4ヶ月の間が子育てで一番苦しかったと76%のお母さんがアンケートに答えているのです。

今、私は戦後1945年(昭和20年)から今この時代を振り返っています。

- 1) 1950年(昭和25年)前後の第一次ベビーブーム、
- 2) 1975年 (昭和50年) 前後の第二次ベビーブーム、
- 3) 1975年~1990年(昭和50年~平成12年)女性就労支援期
- 4) 1980年(昭和55年)頃に多発した無許可ベビーホテルでの死亡事故
- 5) 1987年(昭和62年)「保育所機能強化費」の予算措置が始まる
- 6) 1989年 (平成元年)「なぜ保育所地域活動事業」が創設されたのか
- 7) 1993年(平成5年)保育所子育て支援モデル事業創設
- 8) 1994年(平成6年) エンゼルプランの策定(子育て支援のための施策)
- 9)1995年(平成7年)地域子育て支援センター誕生

こうした時代の流れにあって、私たちは入所児童の保護者や地域の子育て家庭のニーズに応えてきました。

子育ての孤立化や負担感が、専業主婦でさえ70%以上という 調査結果が出て、驚いたことがありました。

こうした時代の中で、

私たちの合言葉はチルドレンケア・ファーストではなく、「ファミリーケア・ファースト(家族のケアが第一)」を実践してきました。 私たちは、子どもを守るために保護者(家族)や地域の子育て家庭の 皆さまの心と身体の健康を守ってあげたいのです。

ずっとずっと前から私は

私たち柏さかさい保育園の保育者仲間たちも、 保護者会の皆さまも、みんなみんな家族のつもりでいます。 だから、皆さまには生みの親として3歳までの子どもたち一人ひとりに 良い習慣をつけて頂き、皆さまの家族一人ひとりが 幸せな人生が送れることをお祈りしています。

園長 中山 勲

2. 児童福祉施設である保育所の機能と役割

告示化された保育所保育指針「第6章 保護者に対する支援」には、現行の保育所が取り組むべき内容として、①入所児童の保護者との連携・支援、②特別な支援を必要とする家庭(障害・一人親・虐待等)への支援、③地域子育て支援、④地域関係機関・団体との連携等が記載されています。これらは今後も保育所を原点とする施設であれば、いずれも果たさなければならない役割であります。

そして児童福祉施設である保育所は、入所児童の保護者への支援を責務とし(児童福祉法第 18条の4参照)、地域の子育て中の家庭への支援についても努力義務としています(児童福祉 法第48条の3参照)。

しかし私たちは、1973年(昭和48年)に茨城県下館市(現筑西市)に開設した筑子保育園の時代から、現在千葉県柏市にある都市型の柏さかさい保育園での実践活動を振り返ってみますと、それらは「利用者の最善の利益の実現」につながります。

筑子保育園の時代から、育ての親として行政に先取りする形で朝食提供、延長保育、乳児・ 障害児保育、学童保育、子育て支援、一時保育やショートステイまで利用者のニーズに応えて きました。

新しい制度・新幼保連携型認定こども園に移行しない私たちのような保育園は、地域の事情や社会的背景、利用者のニーズを把握して、行政に先取する形で地域福祉の向上に寄与する「子育て支援コーディネーター」として、地縁・子縁のネットワーク創りの核にならなければいけないといつも考えています。

また、こうした時代の移り変わりを見つめた時に「多様化する家族の形態」を見逃すわけに はいきません。

例えば、高齢出産、核家族化、少子化、産後うつ、虐待、育児不安と育児負担感、貧困、離婚、 発達障害児の出現、家族機能不安、18歳未満の未婚の世帯など、数え挙げればきりがありません。

- 特に今、 1. 子どもを好きになれない
 - 2. 子どもを可愛く思えない
 - 3. 親に愛されたことがないから、愛し方がわからない
 - 4. 子どもの泣いている意味がわからない

などという声を聞きますが、社会的養護の必要性が求められていると思っています。

こうした家族が生れた背景の1つに、自分の子どもを生むまで子どもの世話をした事がない 親が54.5%もいたという、2003年の兵庫レポートがすべてを物語っているのかも知れません。

3. 今私たちに求められている5つの実践活動

合言葉は「生みの親と一緒に 地域親を育てながら よりよい育ての親になろう!」です。

です。

〈実践活動〉

1) 子どもの愛された育ちの保障(保育ケア・ワーク)

保育方針は

わたしを ぎゅっとして

わたしを 見つめて

わたしを 呼んで

わたしを 聞いて



[愛された育ちの保障]

2) 保護者や地域の子ども家庭支援 (ファミリーソーシャル・ワーク)

今私たちに求められている保育は、子どもだけを見つめるチルドレンケア・ファースト(子どものケアが第1)ではなく、ファミリーケア・ファースト(家族のケアが第1)です。私たちの援けを待ち望み、願う人たちのためにスキマのない子ども家庭支援が求められているのです。



[保護者や地域の子ども家庭支援]



[母子保健推進委員と情報交換]

3)保健・福祉・医療・教育・環境・子育て支援・青少年育成など社会資源との協働(保育ソーシャル・ワーク)

「つながりの文化・つながる力」を再構築しながら、「多様な育ち」「多様な家庭」が生れて くる時代の中で、保育所における子育て支援センターは地域の子育て支援の核となり、子育て ネットワーク(地縁・子縁)を形成する役割と、子育て支援コーディネーターとして、ライフ ステージに応じたプログラム・サービスを創造し展開することが必要とされています。

4) 保育所から始める地域コミュニティ創り(コミュニティソーシャル・ワーク)

「生活の中の保育、24時間の生活時間の共有」を目指し、地域の人たちと共に子どもの発達と生活の連続性を確保しながら、四季のおまつりや園の行事などに参加して頂き、共に育ち合う仲間作りが大切なのです。

5) 新しい子育て文化の創造(未来の親づくり)

私たちは今、多様な家族から生れる虐待やいじめにつながる2世代、3世代にわたる世代間 伝達をここで断たなければなりません。

こうした活動を通して、「地域福祉の向上」と「児童福祉施設」としての機能の強化を図っていくことが求められています。地域福祉・保育・教育の世界にこそ、イノベーション革新や 創意工夫が求められている時代であることを、改めて心していかなければならないと思っています。



[保育所から始める地域コミュニティ創り]



『新しい子育て文化の創造 (未来の親づくり)』

4. 専門性を有する地域型保育事業と子ども・子育て支援事業

新制度・新幼保連携型認定こども園をみると、小規模保育等(表1)を市町村の認可事業とした上で地域型保育給付の対象とすることを認め、また、地域子ども・子育て支援事業(表2)として13種類を法に定め、給付の対象とした小規模、多機能の事業を求めています。

《表 1 地域型保育事業》

- ・小規模保育(利用定員6人以上19人以下)
- ·家庭的保育(利用定員5人以下)
- ・居宅訪問型保育
- ・事業所内保育(主として従業員のほか、地域において保育を必要とする子どもにも保育を提供)

- 《表2 地域子ども・子育て支援事業》

- · 利用者支援
- ・地域子育て支援拠点事業 (交流、相談、援助、情報提供、講習等)
- 一時預り
- · 乳児家庭全戸訪問事業
- ・養育支援訪問事業その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業
- ファミリー・サポート・センター事業
- ・子育て短期支援事業
- · 延長保育事業
- ・病児・病後児保育事業
- ・放課後児童クラブ

- · 妊婦健診
- ・実費徴収に係る補足給付を行う事業
- ・多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業

(例:特別支援教育に関する支援等)

上記は正に、私たち保育所の役割であります。児童福祉に特化することで新たな事業の展開を図り、「児童福祉施設」として高い専門性を有する保育所の存在意義を地域社会に発信していくことが、私たちのミッションであると思っています。

5. 新幼保連携型認定こども園の機能と役割

新制度・新幼保連携型認定こども園は、全ての子どもが健やかに成長することをめざして、家庭、学校、地域、職域など社会のあらゆる人々が協力し、「良質かつ適切な」子ども・子育て支援を行なうことを目的としています(子ども・子育て支援法 第2条「基本理念」参照)。また、「幼児期の教育及び保育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」であることを明記し、小学校就学前の子どもに対する「教育」「保育」「子育て支援」を総合的に提供することによって、地域において子どもが健やかに育成される環境を目的としています(就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律 第1条「目的」参照)。

さらに新制度では、子育て支援事業を行うことを責務としています(就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(2012年8月改正)第1条および第2条12参照)。

保育士養成教育課程では、「児童家庭福祉」「家庭支援論」「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」「乳児保育」「障害児保育」「社会的養護内容」等を必修科目としており、保育所においても現任研修等によって、子どもと家庭を支援する知識・技術・経験を蓄積してきました。一方で、幼稚園教諭教育課程ではカウンセリングを含む教育相談のみが必修科目となっています。幼稚園は利用者との直接契約であり、困難を抱える家庭が直接選択して入所することは少ないのではないかと思っています。今後、児童福祉の専門性・経験を持たない幼稚園が、新しい仕組みによって新幼保連携型認定こども園へ移行することを考えると、困難を持つ子どもと家庭を排除しないための新たな仕組みづくり、教育・保育施設における家庭支援等の専門性向上は必修であると警鐘を鳴らしていくことが必要と思われます。

6. 「新幼保連携型認定こども園」への移行に伴う責務

新幼保連携型認定こども園に移行する場合は、地域子育て支援事業に責務として取り組まなければならないとされています。現行の幼保連携型認定こども園では、告示に「保護者及び地域の子育て力を高める観点に立って子育て支援事業を実施すること」と規定され、具体的な子育て支援事業として次の3つが列記されています。新幼保連携型認定こども園では、これまで以上に幅広い対応が求められているようです。

第7 子育て支援

認定こども園における子育て支援事業については、次の一から三までに掲げる点に留意して実施 されなければならない。

- 一 単に保護者の育児を代わって行うのではなく、教育及び保育に関する専門性を十分に活用し、 子育て相談や親子の集いの場の提供等の保護者への支援を通して保護者自身の子育て力の 向上を積極的に支援すること。また、子育て世帯からの相談を持つだけでなく、認定こど も園から地域の子育て世帯に対して働きかけていくような取組も有意義であること。
- 二 子育て支援事業としては、子育て相談や親子の集いの場の提供、家庭における養育が一時的 に困難となった子どもに対する保育の提供等多様な事業が考えられるが、例えば子育て相 談や親子の集う場を週三日以上開設する等保護者が利用を希望するときに利用可能な体制 を確保すること。
- 三 子どもの教育及び保育に従事する者が研修等により子育て支援に必要な能力を涵養し、その専門性と資質を向上させていくとともに、地域の子育てを支援するボランティア、NPO、専門機関等と連携する等様々な地域の人材や社会資源を活かしていくこと。

(認定こども園に関する国の指針(就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第3条第1項第4号及び同条第2項第3号の規定に基づき、文部科学大臣と厚生労働大臣とが協議して定める施設の設備及び運営に関する基準)平成18年8月4日文部科学省・厚生労働省告示第一号より抜粋)

7. 保育所における子育て支援のあり方(事例編)

社会福祉法人童心会 柏さかさい保育園にある子ども家庭支援センター「まことちゃん」を 初めて利用された1歳2ヵ月の男の子を持つママから手紙が届きました。これが契機となり、 子育て真最中のお母さんたちの悩みに対する私たちの役割を考え直しました。今私たちが果た さなければならない役割だと思います。その手紙には次のように書かれていました。

《子育て支援センター「まことちゃん」を初めて利用されたママからのお手紙です》

昨日は、支援センターを利用させて頂き有難うございます。

	昨日は、支援センターを利用させて頂き有難うございます。				
	お手紙の内容	キーワード			
1	私の性格上、初めての人や場所は苦手なのですが丁寧な電 話対応に意を決して貴園へ出向く事が出来ました。	○電話の応対○受容○グループケア○思いやる言葉			
2	翌日の利用日には息子があちこち動き回ってもその都度、近くにいる先生方が話し掛けたり抱っこして下さったり、	○笑顔・挨拶○受容○ふれあい○おもてなし○園内開放○あるがままを、あるがままに○抱きしめ言葉○心づかい			
3	足を洗う私たちを見てタオルがあるかたずねて下さった りと自分の仕事の合間に色々と気遣ってくれた事に驚く とともに、とても気持ち良く過ごす事が出来ました。	○グループケア○心づかい○思いやり○メンタルヘルス・ケアマインド○おもてなし○受容○安心			
4	貴園で何より驚いたのは、園の方針と子ども達のイキイキ した表情です。	○保育方針○開かれた保育○園内開放○子どもの姿○笑顔・挨拶○愛された育ち○共存・共生・共感・共育			

我が家でも水・砂遊び、虫捕り、料理の手伝い(ゴマすり ○家庭教育の方針 や皮むき)、作る過程を見せる等して何でも経験させ、禁 ○早期教育(1歳2ヵ月)の対応 止なく、遊びは汚い事も危ない事もなるべく見守り感じた ○育児不安 り考えさせるをモットーにしているのですが、いざ集団の ○良い母親意識 中に入った時、自由すぎて我慢や協調性に欠けトラブルの ○良い子づくり 元になるのではないかという不安が常につきまとっていま した。 ○保育ケア・ワーク どこまで自由、どこまで我慢させるか、その方法など日々 ○早期教育の対応 迷いながら関わっていますが、園の子ども達の言動、身体 ○あるがままを、あるがままに ⑥|能力の高さ、利発さを見たり感じたりするうちに、ある程 ○五感の刺激 度の自由と経験が子どもの成長にとっていかに大切か再確 ○仲間遊び 認する事ができました。 ○体験学習 ○保育方針 ○子育て支援 ○保育ケア・ワーク この様な貴重な時間と経験をさせて下さった園長先生、諸 ○笑顔・挨拶 先生、本当に本当に有難うございました。また、当日、園 ○グループケア 見学を担当して下さった先生、主人やその家族との方針が ○園内開放 全く異なり気に病む事が多い中、色々話を聞いて何度も何 ○見つめ直し 度も励ましアドバイスをしてくれてどんなに有難かった ○傾聴・受容・共感 か。私も少し自信を取り戻し、気持ちを新たに息子に向き ○体験学習 合えそうです。再びセンターを利用する日が待ち遠しいで ○家庭教育 す。 ○気づき ○メンタルヘルス・ケアマインド

私たちは初めて子育て支援を利用されたママの心の移り変わりをこの手紙の中に見て、「保 育所併設型子育て支援、保育所における子育て支援」の専門性を考え直しました。

自由な保育園の園内開放の中で、保育者仲間たちの専門性あふれるケアが、この手紙を書いてくれたママと子どもの成長と人間信頼につながる機会になったと思っています。電話の対応から始まったメンタルヘルス・ケアマインドが、このママの描いていた子育ての見つめ直しに

つながったような気がします。

私たちの専門性を通した受容、グループケア、笑顔・挨拶、抱きしめ言葉などによる「開かれた保育」を通して、良い母親になろうとがんばり過ぎていたことに気づいたのかも知れません。早期教育的な子どもとの関わりの中で、親の言うことをよく聞く、聞き分けのある良い子育てをしようとしていた自分を見つけたのかも知れません。

子育て支援は、この様な事例の一つひとつの積み重ねであります。地域の子育て環境のネットワークを作る上で、子育て支援コーディネーターになることが私たちの役割だと思います。

この子育てママの手紙を読み終えた後、私たち保育者仲間や子どもたちと過ごす大切さを学び、再び利用できる日を心待ちにしている姿を目に浮かばせました。

8. エピローグ

「児童福祉施設である保育所は、入所児童の保護者への支援を責務とし、地域の子育て家庭への支援についても努力義務でもある」と前にも述べました。

私はおわりに、保育所における保護者への支援のあり方を、年長児の母親からの1通の手紙 を通して考えて見たいと思います。

それは、9月のお誕生会の「伝えあいメッセージ」の中に書いてありました。

《手 紙 の 内 容》

まず、お返事遅くなってすみません。

私は、お誕生日会には感謝しています。

それは、私達を親に選んで生まれてくれた事を思い出させてくれて、どれだけ大事なのかを改め させてくれるからです。

私達夫婦はもちろん、両親・兄妹・親戚・友達に喜ばれ望まれて生まれてきて、本当に自然に出た嬉しい涙は初めてでした。

可愛くて愛しくて…

大切なものって沢山あるけど、別格でした。

こんなに思っていたのに、ムカついたりイライラしたりするようになって、毎日怒ってしまう。

そして反省する。次の日には、また怒ってしまうことの繰り返しです。 妹が生まれ、怒ることが増え、本当に可哀想な思いをさせています。

なのに妹を可愛がり、私達を大好きと言ってくれる息子に申し訳ない、こんなダメな母親で息子 は幸せなのだろうか?と思う日々です。

でも、お誕生日会で小さい時の写真を見たり、子どもの「ありがとう」の言葉で沢山の愛をあげたいと思いました。

毎年、素敵な1日をありがとうございます。

"私たちを親に選んで生れ、夫婦、両親、兄妹、親戚、友達に喜ばれ望まれて生れてきて、可愛くて愛しくて嬉しい涙にあふれた"親が、何年か経つうちにムカついたり、イライラしたり毎日怒ってしまう親に変わっていってしまった様子がこの手紙から分かります。母親は親として、周囲に認められる良い親、完全なる親として認められようと一生懸命になり、子どもに何でも言うことを聞く素直な良い子を求めすぎたのでしょう。自己主張をしている子どもを言うことのきかない悪い子として怒ってしまう、母親の苦しむ姿を思い浮かべました。

しかし、母親はお誕生会で子どもから「ママ、ぼくをこんなに大きく育ててくれてありがとう!」の言葉を与えられ、その言葉に母親は「子どもに沢山の愛をあげたい」と温かい心に包まれました。

送られてきた手紙の中にすべてがありましたから、私たちはこの保護者に何も言うことがありませんでした。

私はこれが、保育所における保護者支援、保育所併設型子育て支援「センター型」の実践的な成果であることをお知らせして、この物語のエピローグとしたいと思います。

参考文献

渡辺久子:「子育て支援と世代間伝達」 全剛出版

日本保育協会:「子どもが育ち 親も育つ 地域がつながる 子育て支援」

~地域における子育て支援に関する調査報告書~

金子恵美:「新たな制度による子育て支援の展開について」全国保育協議会

原田正文:「子育て変貌と次世代育成支援」名古屋大学出版会

―兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防―

内閣府・文部科学省・厚生労働省:子ども・子育て関連3法について

9. 保育所における子育て支援センター実績報告書の書き方の例

平成24年度 子育て支援センター利用状況

柏さかさい保育園

センター名:まことちゃん

ア)子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 ※必須事業

1. 子育てサロン (開設時間 9:00~16:00)

	参加		子ども参	参加人数		妊婦のみ	合計	合計 実施日数
	世帯数	0歳	1歳	2歳	3歳以上	の参加	参加人数	天旭口奴
4月	182組	23名	86名	27名	46名	0名	367名	20日
5月	212組	39名	111名	39名	53名	0名	487名	21日
6月	361組	67名	230名	36名	28名	0名	726名	21日
7月	385組	82名	157名	73名	73名	0名	776名	21日
8月	349組	74名	140名	68名	67名	0名	704名	17日
9月	372組	94名	147名	66名	65名	0名	749名	21日
10月	406組	117名	148名	32名	109名	0名	815名	22日
11月	331組	132名	133名	66名	98名	0名	668名	21日
12月	358組	116名	107名	34名	101名	0名	721名	18日
1月	組	名	名	名	名	名	名	日
2月	組	名	名	名	名	名	名	日
3月	組	名	名	名	名	名	名	日
合計	2,956組	744名	1,259名	441名	640名	名	6,013名	182日

[※]合計参加人数は、保護者、子ども、妊婦の延べ人数をご記入ください。

イ)子育て等に関する相談、援助の実施 ※必須事業

1. 育児相談(保育ケア・ワーク)

相談件数(合計)	相談内容及び対応
7	近所に友達がいない、遊ぶ場所がない
4	一時保育を利用したい
10	入園したいがどうしたらよいか
1	4月復職予定だが入園できるかどうか心配。また、友達に保育園に入園することを話すと「幼稚園で教育を受けることは考えないの?」と言われ、保育園に入れることが悪いことなのかと悩んでいる
1	柏市の保育園に入園後、6月頃他市に転居予定。他市に転園できるか心配
1	体重が増えない
1	5 ケ月間体重増加がなく心配

1 体重は増えるが、身長が伸びない 1 最近甘えがひどくなった 1 母親の腕を噛むことがある 1 指しゃぶりが治らない 1 オムツ替えをいやがる 1 思うようにならない時に親をたたくことがある 2 自分でやりたがるが思うようにできないとあばれる 3 言葉が遅いのではないか 言葉の遅れを指摘されて「ひよこルーム」に通うことになり、ショック。食事
1 母親の腕を噛むことがある 1 指しゃぶりが治らない 1 オムツ替えをいやがる 1 思うようにならない時に親をたたくことがある 2 自分でやりたがるが思うようにできないとあばれる 3 言葉が遅いのではないか 言葉の遅れを指摘されて「ひよこルーム」に通うことになり、ショック。食事
1 指しゃぶりが治らない 1 オムツ替えをいやがる 1 思うようにならない時に親をたたくことがある 2 自分でやりたがるが思うようにできないとあばれる 3 言葉が遅いのではないか 言葉の遅れを指摘されて「ひよこルーム」に通うことになり、ショック。食事
1 オムツ替えをいやがる 1 思うようにならない時に親をたたくことがある 2 自分でやりたがるが思うようにできないとあばれる 3 言葉が遅いのではないか 言葉の遅れを指摘されて「ひよこルーム」に通うことになり、ショック。食事
1 思うようにならない時に親をたたくことがある 2 自分でやりたがるが思うようにできないとあばれる 3 言葉が遅いのではないか 言葉の遅れを指摘されて「ひよこルーム」に通うことになり、ショック。食事
2 自分でやりたがるが思うようにできないとあばれる 3 言葉が遅いのではないか 言葉の遅れを指摘されて「ひよこルーム」に通うことになり、ショック。食事
3 言葉が遅いのではないか 言葉の遅れを指摘されて「ひよこルーム」に通うことになり、ショック。食事
言葉の遅れを指摘されて「ひよこルーム」に通うことになり、ショック。食事
ごはんを食べず、心配でフォローアップミルクを飲ませている。パンは食べる ご飯を食べない。おにぎりは丸がいいか、三角がいいか、俵型がいいか、ふりけは何がいいか
5 下の子が生まれて外で十分遊ばせることができない、赤ちゃん返りがある
下の子が生まれてわがままになり、荒れている。赤ちゃんをひっかいたりして る。どうしたらいうことをきくようになるか
2 ママ友でのサークル活動をする場所を借りたい
1 食が細い、食事に関心をもたない
3 食事がうまく食べられない
1 野菜を嫌がって食べない
1 母親の作った食事より市販のものを食べたがる
1 牛乳が好きだがどれくらいのませたらいいか
1 野菜ジュースは体にいいのか
2 食事時間は何分位が良いのか、時間がかかり過ぎていると思う
3 食事に集中できず、落ち着いて食べない
3 離乳食の開始時期はいつからか、どのように進めたらよいか
6ヶ月児。祖母は果汁を飲ませた方がいいと言うが、アレルギー反応が出やすなると聞いたことがある。また、麦茶を飲ませると水を飲まなくなると聞いたとがある。飲ませないほうがいいか
育児書に書いてある量より食べる量が少ない。もっと食べさせた方がいいでし うか
1 9ヶ月児、おやつをあげてよいか
1 たくさん食べたり食べなかったり、むら食べをする
1 スプーンを左手で使う、右利きにしたいがどうしたらよいか
1 箸はいつ頃から使い始めたらよいか
1 断乳をどうしたらよいか
1 眠くなるとおっぱいをほしがりぐずる。1歳2ケ月だがこのままでよいか
1 フォローアップミルクはいつまで飲ませたらよいか
1 夫婦で来園、パパは育児のしかたがわからない、パパは何をサポートしたらよい

3	トイレトレーニングはどうしたらよいか
1	叱った時、右肩を上げるくせがある。医者に行った方が良いか
1	嘔吐下痢症に昨年かかった。今年も繰り返すことがあるか
1	顔、体に湿疹があり小児科でローションをもらってつけているが、なかなか治ら ない
1	毎日、入浴後に綿棒で鼻の掃除をしているがやりすぎでしょうか
1	ロタリックスの予防注射、6ヶ月までに受けなければ効果がないと聞いたがどう なのか
1	インフルエンザ予防接種は、いつ頃受けるのが効果的か
1	他市より転入してきた。柏市の予防接種はどのような体制になっているのか
2	鼻水が出ると夜中に咳き込んで吐いてしまう。熱はないがどうしたらよいか。病院に行くタイミングは?
1	夜中、ミルクを飲んだ後1時間ぐらいすると首を激しく左右に振る。病院に行ったほうが良いか
1	2歳5ヶ月児、集団に入れずに泣いてしまう
1	2歳半過ぎから人見知り、場所見知りがひどくなった
1	ピアノ教室に通わせたい、どこか近くにないだろうか
1	他の子と同じようにできないことがある
1	ママから離れない、人になつきにくい
1	歯みがきをいやがる
1	子育ての考え方が姑と違うので、自信がなくなっている
1	砂あそびはいつから経験させたらよいか
92	対応については、ママの不安をなくせるようによく話を聴いて、助言をする。情報の提供をする。必要に応じて、保育参観や参加をしていただき、育児の参考にしていただく

ウ) 地域の子育て関連情報の提供 ※必須事業

1. 情報提供

	情報名	内 容
4月 5月 6月	まないのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、ないので	・支援センターの活動案内、お誘い ・離乳食メニューの紹介など掲示 ・園で行う行事へのお誘い ・柏市認可保育園協議会で作成したガイドブックを利用者に配布 ・予防接種の一覧表掲示 ・熱中症予防、食中毒予防、虫さされ対策について資料配布
7月 8月 9月	防火教室 季節の遊びの紹介 夏まつり情報 早ね早起き朝ごはん運動	・消火器の扱い方の体験訓練 ・水遊び、プール遊び ・リフレッシュ公園での夏祭りの案内 ・「早寝早起き朝ごはんガイドブック」配布

10月 11月 12月	新予防接種について 沼南まつり情報 地域の子どもの広場・ 子ども図書館イベント 情報 乳幼児期の食事のポイント 寒い季節を元気にすご そう	・新予防接種についてのガイドブック配布 ・子育て支援コーナーの紹介 ・近隣センターや児童館、子ども図書館でのイベント情報の掲示 ・「食べるの大好き!」(財)母子衛生研究会発行の冊子配布 ・感染症が流行しやすい季節に、注意が必要なことについて資料 配布
1月 2月 3月		
	合計	

(記入例:支援センターだより 季節の遊び紹介など)

エ)子育て及び支援に関する講習等の実施(月1回以上) ※必須事業

1. 育児講座

	実施日	内容	参加組数	参加人数
第1回	4月24日	友達つくろう会	5組	13人
第2回	5月31日	喜んで食べる食事	6組	13人
第3回	6月22日	夏の過ごし方について (看護師)	9組	18人
第4回	7月12日	ベビーマッサージ&わらべうた	12組	24人
第5回	7月24日	防火教室	20組	47人
第6回	8月8日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	10組	20人
第7回	8月28日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	10組	20人
第8回	9月13日	ベビーマッサージ	14組	30人
第9回	9月19日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	4組	8人
第10回	9月24日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	9組	18人
第11回	10月9日	寒い季節を元気にすごそう (看護師)	9組	18人
第12回	10月16日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	8組	16人
第13回	10月22日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	10組	22人
第14回	11月5日	ベビーマッサージ	9組	20人
第15回	11月7日	ヘアカット講座	14組	28人
第16回	11月8日	つくってたべよう(手作りふりかけ・パンケーキ)	11組	24人
第17回	11月13日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	8組	16人
第18回	11月22日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	11組	22人
第19回	12月6日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	10組	21人
第20回	12月10日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	6組	13人
第21回	12月19日	食事体験と喜んで食べる食事 Q&A (栄養士)	8組	16人
合計			203組	427人

才) 地域活動支援 ※必須事業

1. サークル利用状況

	参加組数	参加人数	サークル数
4月	3組	6人	1
5月	9組	18人	3
6月	12組	24人	3
7月	15組	31人	3
8月	14組	29人	3
9月	5組	10人	2
10月	7組	15人	3
11月	14組	30人	5
12月	7組	14人	2
1月	組	人	
2月	組	人	
3月	組	人	
合計	86組	177人	25

2. 地域交流 (園庭開放)

	回数	参加組数	参加人数
4月	24	23組	50人
5月	24	55組	116人
6月	26	115組	236人
7月	25	184組	376人
8月	20	163組	332人
9月	23	184組	378人
10月	25	140組	288人
11月	23	159組	324人
12月	21	118組	246人
1月		組	人
2月		組	人
3月		組	人
合計	211	1,141組	2,346人

3. 出前保育

	実施日	内容	参加組数	参加人数
第1回	5月20日	子育てフェスタに参加	168組	193人
第2回	6月13日	リフレッシュプラザにて大型絵本、親子体操	10組	20人
第3回	8月4日	リフレッシュ公園にて夏祭り 支援センターブースでう ちわづくり	91組	191人
第4回	10月21日	沼南まつり、柏東ロータリークラブの地域子育て支援コーナーにて、足型トンボ・工作トンボづくり、支援センターガイドブックの配布	110組	300人
第5回	月日		組	人
É	合計 回		379組	704人

4. 地域活動の支援

活動名	内容			
流山高等学園 (特別支援学校) 職場体験受け入れ	6月 2年生3名、3年生3名、各2週間ずつ職場体験実習受け入れ 10月 3年生2名 2週間の職場体験実習受け入れ			
慈恵柏看護学校実習生受け入れ	6月・7月 3年生2名、1日の実習受け入れ			
逆井小学校初任教諭職場体験受 け入れ	10月 1日体験受け入れ			

柏市立南部中学校職場体験受け 入れ	11月	2年生9名、	1日の実習受け入れ
我孫子東高等学校インターンシ ップ受け入れ	11月	1年生6名、	3日間の実習受け入れ

カ) その他の取り組み ※任意事業 (保育ケア・プラン)

取り組み	内容
食事体験会	園児と同じ食事を親子で食べていただく。必要に応じて、園児の食事のようすをみていただき、参考にしていただく。また、栄養士も参加し、 食に関する質問に答える
お弁当会	手作りのお弁当を持参して、支援センターで一緒に食事をする。家庭での昼食は母子のみのことが多いが、みんなで食べることで食事を楽しむことができ、友達づくりもできる(母親の要望があり実施)
地域の団体との連携	ロータリークラブ、天寶護持会、協栄会 (スーパーおっかさん協力会) と連携をとり、夏祭りを実施
中学生育児体験	夏休みを利用し中学生の育児体験を行い、未来の親づくりをする
新米パパ・ママ育児体験	新米パパ・ママの育児不安をなくすように、0歳児の育児体験をしていただき、育児についての相談・アドバイスをする
親子運動会に参加	親子運動会を参観していただき、親子で競技種目に参加する
お散歩会	親子でみんなと一緒に近くの公園まで歩いて行き、公園での遊びを楽しむ。車での移動が多く、歩きたがらない子が多いという親の声があり、 みんなで一緒に歩くことで歩く意欲を持たせて楽しめるようにする
ミニピクニック	お弁当を持って、親子でみんなと一緒に近くの公園まで歩いて行き、ピクニックを楽しむ。親子だけでは歩かない子も、楽しい雰囲気で歩けるようにしたり、広い場所でのびのびと遊んだり、親子ともに家庭では経験できない活動を楽しむ
じゃがいも掘り・大根掘り	近くの畑で、じゃがいもほり・大根掘りの体験をする。野菜ができるようすをみて食材を身近に感じたり、土に触れて楽しめるようにする
おはなし会	絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、人形劇など、様々なものを使っておはなしや物語を楽しんでもらえるようにする。てあそびや、 ふれあいあそび、音楽も取り入れながら、飽きずにおはなしが聴けるよ うに工夫している
つくってみよう (製作あそび)	家庭では経験できないような素材、作品を工夫し、親子で季節に合った 製作を楽しむ
パパとあそぼうデー!	土曜日に、パパも一緒に来園していただき園内案内をし、親子あそびを 楽しむ。平日に来園できないパパに来ていただき、園の様子を知ってい ただくようにする
すくすく賞表彰	「まことちゃん」の出席カードのシールが31枚(全部)になった方に表彰状を贈る。育児をがんばっているママの努力を認め賞賛を贈ることで、育児の労をねぎらい、これからの励みにしていただく
クリスマス会	1~2歳児の園児の発表を見たり、一緒にステージに上がって楽器あそびを楽しんだり、親子で軽食づくりをしてみんなで食事を楽しんだりして、家庭では経験できないクリスマス会を楽しむ
マタニティママ&パパ 育児体験会	0歳児クラスでの育児体験をして、育児に対する不安をなくすようにする。また、出産後に支援センターにつながることができるようにする

身体測定	身長・体重を測定し、出席カードに成長の記録として記入する
映画会	ホールにて、30分くらいのDVDの鑑賞(支援センターを初めて利用する方のきっかけづくりとなっている)
誕生会	その月に生まれたお子さんを招待して、園児といっしょにお祝いをする
調査研究	よりよい子育て支援をしていくために、武庫川女子大学橋詰啓子先生の協力をいただき、「子育て応援アンケート」調査の実施。市内私立認可保育園協議会にも協力をいただいて、柏市の支援センター利用者の意見を集計。今後の活動を探る資料とする
保育ケアワーク	例:1歳児が着替えを自分でやろうとしているのをみて、センターに来ている1歳児も取り組もうとしたり、今まで外で遊んだことがなかった1歳2ヶ月児の母親が、0歳児の活動をみて初めて砂遊びや水遊びを経験させるようになるなど。また、姑と育児方針が合わず自信をなくしていた1歳2ヶ月児の母親が、園児が遊んでいるのを見たり、保育士の助言で自信を持つようになったりしている
保育ケアプラン	例:1歳児で食事の時間に座って食べられないという母親に、0歳児、1歳児、2歳児の食事のようすをみていただき、食事指導の段階を参考にしていただいたり、野菜嫌いの子の指導について、園児の食事指導を実際にみていただいて助言をしたり、3歳児で箸を持とうとしない子の場合は、3歳児のクラスで一緒に食事をしてもらい、園児が箸を使っている中で自然に箸を持とうという意欲を持たせるようにしたりしている

(2) 富山県:

保育所(園)の特性を活かした子育て支援事例

社会福祉法人常盤台保育園園長 古本好子

はじめに

「地域における子育て支援に関する調査研究」に携り、この報告書で4冊目になりました。 それと同時に当保育園の子育て支援センターも4年目になります。

保育園に併設された子育て支援センターとして、保育園の特性を発揮しながらさらに役割を 果たしていくことを考えた時、昨年度は社会に学ぶ「14歳の挑戦」や、中学3年生の保育所 (園) 訪問事業・親子が中学校を訪れるウエルカムベイビー事業などを紹介しました。

そして、これから男女が結婚して家庭を築き、出産と子育てを体験していく中で何を支援していけばよいのかを考えてみました。

近年、中・高校生、大学生などの若者が、赤ちゃんを抱くという経験がほとんどないまま親になり、自分の子どもができて初めて赤ちゃんを抱いたということが少なくないようです。このような状況ですと「子どもの育ちが分からない」「子どもとの接し方が分からない」などといった、自分の子どもを育てることに不安になることが推測されます。そこで、妊娠中からの支援の必要性が強く言われています。妊娠期の不安は出産後の不安と関係しており、妊娠中から支援を行うことによって、安心して子どもを産み育てることに繋がると期待されています。

このように、妊娠中からの支援が必要とされているなか、富山市では、

はじめまして、赤ちゃん

- ●母子健康手帳の交付
- ●妊婦一般・歯科健康診査受診票の交付
- 妊産婦医療費助成
- ●妊産婦の健康相談
 - ①妊婦の各保健センターでの健康相談
 - ② パパ・ママセミナー ・・・・・・・・・・家族で協力して子育てができるよう、妊娠、出産、育児 についての情報提供や実習・体験をとりいれた教室

などの制度がありますが、妊婦さんが子育て支援のニーズに対してどのような内容を必要としているかを聞いてみると、以下のとおりでした。

- ●親子で遊びに行ける場
- ●子どもが同年代の友達を作れる場
- ●子どもの親と知り合える場
- ●子どもを一時的に預かってくれる場
- ●気軽に相談できる場
- ●子育て広場や子育て支援センターなどの専門機関

また、初妊婦の子育て支援サービスは、

- ●赤ちゃんの接し方・離乳食などの育児講座
- ●ベビーマッサージ
- ●手遊び・体操・リズム遊びなどの育児教室

でした。以上から、初妊婦が、出産後に子育て支援サービスを受けることを強く要望している ことが分かりました。

初妊婦の子育て支援サービスの入手方法は、市町村のパンフレット、健診で配布されるパンフレット、インターネット、市町村のホームページが多い割には、自分の生活圏内の人や機関からの情報、保育所(園)・幼稚園、近所の人、子育て支援センター広場、子育てサロンからの入手方法はあまり利用されていないのが現実です。

初妊婦への保育園による効果的な支援のあり方も検討する必要があります。

■マイ保育園制度について

近年、地域の子育て家庭に対する子育て支援の役割が期待されているなか、センター同様に、 保育園で長年培われてきた保育の専門性の活用が求められています。

専門職が集まっている保育園の特性を活かしての子育て支援、それは「かかりつけの医者」があると安心できるように、子育て家庭に「かかりつけの保育園」を持ってもらおうと目指した、「マイ保育園制度」が着目されています。いつでも育児相談を受けることができ、また継続的に保育体験ができるなど、妊娠時から在宅で子育てをしている方々までの育児への不安感・負担感を軽減し、育児に向けての自信を育むことができるなどの効果が期待できます。

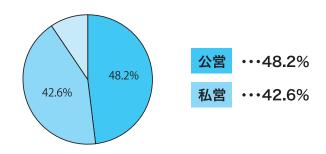
▼マイ保育園制度を実施している保育園の調査より

ある調査結果**から、マイ保育園を実施している保育園の公私の割合、併設されている施設、マイ保育園を開始した時期について見てみたいと思います。

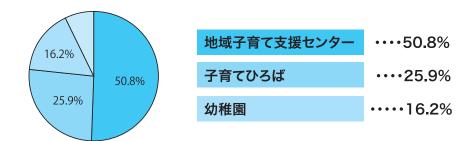
全国的に見ますと、平成23年度現在、マイ保育園制度を実施している保育園数は624園です。マイ保育園を開始したのは、大半がここ5、6年だということが分かります。マイ保育園を実施している保育園の公私の割合を見てみると、若干公営での実施割合が高いようです。併設されている施設は、地域子育て支援センターが半数を占めていることが分かります。

※マイ保育園を実施している全国の保育園を対象に調査を行った、平成23年度かながわ子ども・子育て支援推進調査事業報告書より。調査には624園中386園回答。

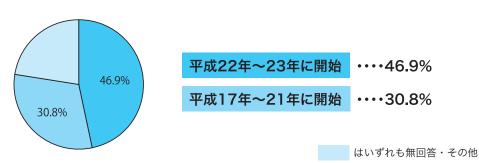
1. 実施園のうち公営と私営の割合



2. マイ保育園実施保育園での併設施設



3. 開始時期



(平成23年度かながわ子ども・子育て支援推進調査事業報告書より引用し、グラフ作成)

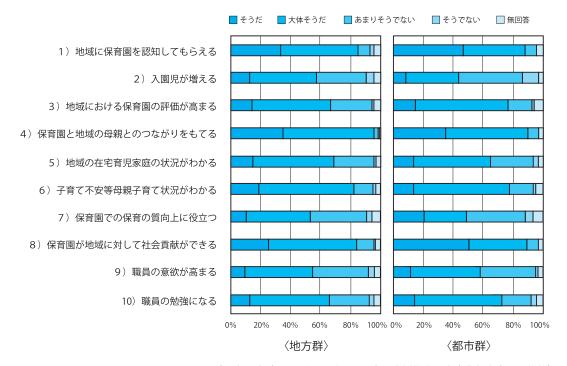
4. マイ保育園制度の成果

次に、マイ保育園制度の成果と利用者にとっての成果を見てみたいと思います。実施保育園の所在地域を地方群(250園)と都市群(69園)に分け、地方群と都市群での比較ができるようになっています(図1・図2)。

マイ保育園の成果項目では(図1)、「保育園と地域の母親とのつながりがもてる」と「保育園が地域に対して社会貢献ができる」が高いことが分かります。

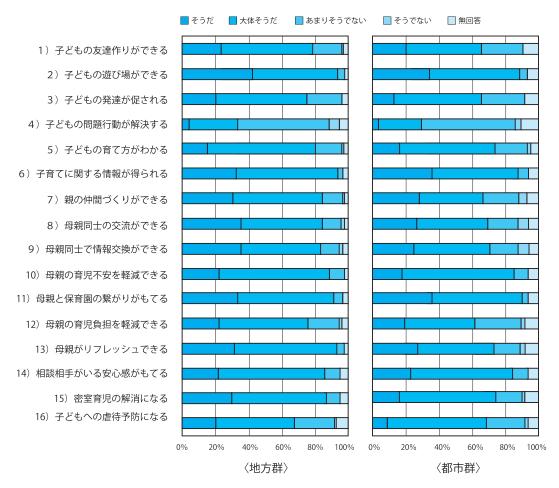
利用者にとってのマイ保育園の成果項目では(図2)、都市群と地方群とで差がみられたのが「母親同士の交流ができる」「母親同士で情報交換ができる」「母親がリフレッシュできる」「密室育児の解消になる」で、地方群の方がそれらを強く思っていることが分かります。地方でも地域の交流がなくなり、マイ保育園制度が有効であると推測できます。

図 1 実施保育園にとってマイ保育園の成果項目の割合(%)



(平成23年度かながわ子ども・子育て支援推進調査事業報告書より抜粋)

図2 利用者にとってのマイ保育園の成果項目の割合(%)



(平成23年度かながわ子ども・子育て支援推進調査研究事業報告書より抜粋)

■富山県マイ保育園の事業概要について

富山県においても、平成22年度からマイ保育園モデル事業の取り組みを始めました。

まず、富山県と富山県民間保育連盟が、事業計画・予算等を協議し、この事業を県民の皆さんに知ってもらうため、マスコットキャラクター・愛称などを募集しました。事業の取り組みのスタートから決定、事業内容などについては、以下の内容により進められました。

▼このように、保護者の方々に呼びかけています。

妊娠したら、まず「マイ保育園」を利用してください。

マイ保育園ってなあに?

「マイ保育園」は、妊婦さんや概ね3歳未満の子どもを持つ保護者を対象に、育児に対する不安感や 負担感を解消するため、身近な保育所(園)を「マイ保育園」として保護者が利用し、地域の子育て家 庭の育児を継続的に支援することを目的とした子育て支援です。

現在は県内163の保育所(園)で実施しています。「マイ保育園」の特徴は、お母さんが妊婦の時から利用することができます。そして、出産後も、子どもたちが未就園児の間、継続して利用できます。

保育士に育児の相談をしたり、育児教室に参加したり、また、抱っこの仕方やおむつ替えなどでわから ないことなど出産前にいるいろと相談できます。

保育所(園)に行くことで、子どもたちの様子、食事、献立、おもちゃなど見ることもできます。

「マイ保育園」があなたのかかりつけの保育所(園)として、子育てを応援します。

■登録方法

- ①母子保健手帳を交付する際に「マイ保育園登録申請書」を配布いたします。
- ②登録を希望する方は、希望する保育園(マイ保育園)を選択し、その保育園に「マイ保育園登録申請書」を提出し、登録していただきます。
- ③サービスを利用する時は、事前に登録保育園に申し込んでください。
- ④保育園からは、「マイ保育園登録カード」がもらえます。



マイ保育園 マスコットキャラクター まいほちゃん

マイ保育園登録カード〈表〉



〈裏〉

	育 児 教室・記		В	育児	相談	C 一時保育		
/	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/		/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/

詳しくはリーフレットをご覧ください。

■平成22年度マイ保育園事業内容

1. 石川県視察・小松市視察

石川県でのマイ保育園導入と現状、課題について 小松市でのマイ保育園を実施している園の活動内容や利用状況

2. マイ保育園制度の説明会・研修会開催(平成22年8月23日)

富山県内でマイ保育園モデル事業を推進するための説明会・研修会をする。

3. 富山県マイ保育園申し込み実施(平成22年8月23日~9月22日)

登録園 富山県民間保育園・・・・・・107か園 小矢部市公立保育所・・・・・・・11か所

計・・・・・118か所**

- 4. マスコットキャラクター・マーク・愛称を募集して決定
- 5. 登録・普及強化月間・広報PR活動の実施(平成22年11月3日)

郊外のショッピングセンターでリーフレットなどを配布する。

■平成23年度マイ保育園事業内容

- 1. 平成22年度利用状況調べ(平成23年6月)
- 2. 新規マイ保育園登録園(平成23年8月~9月)

新規登録園 富山県民間保育園 3か所

富山県公立保育所 42か所

合計 45か所**

※実施園総数は県内163か所になる。

- 3. 鳥取県・群馬県・神奈川県からの視察を受ける(平成23年7月・12月)
- 4. マイ保育園制度の説明会・研修会(平成23年7月、8月、9月)
- 5. 登録、普及強化月間・広報PR活動の実施(平成23年10月、11月)

■ポスター等の配布先

マイ保育園実施園、県内産婦人科医院、小児科医院、市町村母子保健センター、児童担当課

■平成24年度マイ保育園事業内容

1. マイ保育園推進事業 産婦人科と保育園の連携について

マイ保育園制度の普及・定着と子育て支援機能強化のために、平成24年度は、富山県産婦人科医会と保育園が連携し、保育園見学会や妊婦・保護者同士の交流会などの事業を実施するとともにその取り組みを紹介し、マイ保育園参加園の子育て支援活動の促進を図りました。

▼産婦人科医の協力を得て実施している「プレママ・プレパパ体験 in マイ保育園」の内容です。

「プレママ・プレパパ体験inマイ保育園」を行います

1. 妊婦対象(妊娠8カ月ぐらいの妊婦さんとその家族)

内容……おむつ交換の仕方、授乳の仕方、抱っこの仕方、泣いた時の対応、声かけ、寝かしつけかた、離乳食の進め方と作り方、沐浴の方法、赤ちゃんグッズの使用体験、簡単な手作り玩具、季節や発達にあった服装選び



おむつ交換の仕方



離乳食の体験



様々な哺乳瓶の紹介・ 選び方・ミルクの作り方・飲ませ方

2. 産後2カ月程度までの保護者対象

内容……自己紹介、赤ちゃんの名前の由来 紹介、乳児室見学、おしゃべりタイ ム、ベビーマッサージ、手作り玩具、 育児相談

3. 0歳児の赤ちゃんと保護者対象

内容……歌、手遊び、情報交換、育児相談、 離乳食相談、健康相談



実施保育園の感想は次のとおりです。

- ●マイ保育園の認識不足なので、うまく説明をしてあげれない。
- ●入園や一時保育のための登録と間違われる。
- ●職員不足・予算不足でなかなか利用者の要望に答えてあげれない。
- ●保健センターなどのほかの機関との連携がとれない。
- ●親子サークルなど園でおこなっている子育てサポートとの違いがわからない。

その他、様々な意見がありました。

■今後の取り組みについて

富山県内でのマイ保育園の登録園(所)が公私合わせて163ケ園となって窓口は増えつつありますが、はたして利用者はどう考え、何を求めているのか、実施園においては今後どう進めていけばよいのかが課題であると思います。

平成24年度には産婦人科医の協力を得て、妊婦さんが受診に来られた時に保育園で行っているプレママ・プレパパ体験を紹介していただいたりと、産婦人科が妊娠期から保育園とのつなぎをサポートしてもらうというモデル事業を、県内6ケ園で実施しました。

参加者は、妊婦さん一人の参加から $5\sim6$ 名での参加、夫婦での参加があったりと、地域によって様々でした。現在は第1回目が終わり、2回目を実施し始めています。

協力してくださっている産婦人科医からは、「妊婦・産後2ヶ月の親子などを対象に、定期的に行うことで継続的な子育て支援ができる」「今は医療や育児などの情報があふれているので、医者がきちんと正しい情報を伝える必要がある」「マスコミ等はデメリットを大きく報道する傾向にあるので、保護者に不安をあおる傾向にある。反対にメリットの部分が広がらない」とアドバイスをいただきました。

実際、子育て支援の窓口もたくさんあり、児童館、保育園の親子サークル、保健センターでの赤ちゃん教室、地域の子育て支援センター、電話相談も市単位、県単位で実施されていたりといろいろありすぎ、お母さん方はどこに向いていけばよいかわからない方もいらっしゃるでしょう。このような時、自分が住んでいる地域の保育園へいつでも相談に行けるのが一番よいのではないでしょうか。それがマイ保育園としての役割であり、マイ保育園に求められていることだと私は思います。

(3) 熊本県:

体験活動を通した子育で支援

―熊本子育てネットの体験活動を通した子育て支援プログラム開発研究事業を通して―

山東保育園園長 村上千幸

1. はじめに

現代の子育でにおいて育児不安感・孤立感・負担感が大きいことが指摘されています。それらの背景としては様々な要因があると考えられますが、その中の一つが様々な実体験の不足であり、「若いお母さん達の苦手なものが2つあります。それは育児と自然体験活動」(2010九州自然体験活動セミナー)とも言われることがあります。

今行われている子育で支援においては、ひろば事業や居場所・交流事業においては母親の心理的なケアであったり、直接的で対症療法的な子育で支援がなされています。しかし、現代社会における暮らしの在り方そのものが子育でを規定していることを考えると、日常の生活における自然体験や食の活動を体験・経験することによって、暮らしを営む力、ひいては子育でをする力をさらに伸ばす必要があるのではないかと考えます。しかし、それらを支援する地域子育で支援センターの担当者、或いは母体となる保育園の保育士自身の様々な生活体験の有無やその質が、支援事業の計画立案さらにはその成果に大いに関係すると考えられます。

そこで、熊本県地域子育て支援センター事業連絡協議会(通称熊本子育てネット)では、平成20年度から22年度の3カ年にわたり、新しい子育て支援の技法としての「体験活動を通した子育て支援プログラムの開発」をするための、実験的な研究事業を実施しました。この取り組みにより、支援者自身の子育て支援に対する考え方が変容するとともに、支援の在り方自体にも変化を生じさせることが明らかになりました。

熊本子育てネットにおける子育て支援プロラムの開発研究事業を熊本県立大学と尚絅大学の 合同研究チームの成果をもとに報告します。

2. 3年間の活動内容(平成20年度~平成22年度)

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
平成20年度	ワークショッ プ 「食育」につ いて考える	②ワークショ ップ「食育の	①実習「里山 で暮らす」 ②ワークショ ップ「食育の 現状と課題の 整理(2)」	講演と実習 「生ごみリサ イクルと野菜 作り」	料理の調理実 習	ショップ 「生ごみリサ イクルと野菜 作り」	①講演進地会「保ると実践」開議会と実践開講会と実践にできまりにできまりによっている。 (学年の) はいました (学年の) はいました (学年の) はいました (学年の) はいまいました (学年の) はいまいまいました (学年の) はいまいまいました (学年の) はいまいまいました (学年の) はいまいまいました (学年の) はいまいまいました (学年の) はいまいまいまいました (学年の) はいまいまいました (学年の) はいまいまいました (学年の) はいまいまいました (学年の) はいまいまいました (学年の) はいまいまいまいました (学年の) はいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいま		支援センター

	第1回	第2回	第3回	第4回
平成21年度	講演と実習「生ごみリサイクルと野菜作り〜生ごみリサイクルと元気野菜づくりが食を大切に感じる心を育てる〜」	①講演会「保育園における食育 と理論〜味覚と嗜好の形成につ いて〜」 ②交流会	①特別講演「いのち 愛おし」 ②講演「生ごみリサイクルと野菜作り〜元気野菜作りから元気っ子つくりへ〜	①実践事例報告会「保育園における乳幼児の発達と食の関係~2年間の研修と実践を通して見えてきたもの~②ワークショップ「保育園における食育の課題と展開~次年度の食育計画作成に向けて

	第1回	第2回	第3回	第4回
平成22年度	①講演会『家族を育てる食卓支 援』 ~心を育てる食卓・かかわりを 食べる~	講演と実習『食と農の体験』 〜食育活動に関する現状と課題 の整理〜	講演会『絵本から飛び出たおや つ 子どもの夢をかなえよう』 〜楽しみながら好きなものが増 える子どもたちへ〜	講演会『メディアに惑わされない食生活』 〜フードファディズムとメディアリテラシー〜

①平成20年度に実施した事業と結果

20年度には、支援プログラムの開発研究を準備段階として試行的あるいは予行的事業として 計画し、参加園を熊本子育てネットの幹事園である11保育園と子育て支援センターのみに限定 して開催しました。

公開講演会 テーマ『家族を育てる食卓』―食卓からみえる 子どもの心 家族の姿 講師 室田洋子氏(聖徳大学教授)熊本市国際交流会館ホール

- 第1回食育プロジェクト研修 ひかり保育園 熊本県立大学 ワークショップ「食育について考える」
- 第2回食育プロジェクト研修 三角町他

「食と農の体験塾」ワークショップ「食育の現状と課題の整理(1)」

第3回食育プロジェクト研修 氷川町

「里山で暮らす」ワークショップ「食育の現状と課題の整理 (2)」

- 第4回食育プロジェクト研修・特別セミナーII 植木町・ばあちゃん家 講演と実習「生ごみリサイクルと野菜作り」
- 第5回食育プロジェクト研修 県立大学

実習「精進料理の実習」

事例発表会「保育園で行っている食育活動」

- 第6回食育プロジェクト研修・特別セミナーⅢ 熊本県立大学 講演とワークショップ「生ごみリサイクルと野菜作り(2)」
- 第7回食育プロジェクト研修 熊本県立大学

講演「保育園で進める食育の理論と実践」

公開講演会「楽しく食べる食育で子どもが伸びる」

第8回食育プロジェクト研修・特別セミナーIV 熊本県立大学 講演とワークショップ「旬について考える」

平成20年度の事業の効果および考察

平成20年度は試行的・予行的な研修会として位置づけて、年間9回の体験的な食育研修会の開催となりました。研修会の第1回目のワークショップでは、「食育」についての共通語として「健康」「コミュニケーション」「マナー」などが挙げられました。しかし「食育」に対する考えや取り組み方は、当然のことながら、各保育園や参加者の属性によってもグループ毎に(①園長、②保育士、③調理師・栄養士)異なったものであることが確認されました。

アンケートやワークショップの結果からは、研修に参加された保育園での食に対する意識の変化を見ることができました。例えば、「食はすべての基礎となる」「子どもとともに体験することの大切さ」「食育計画は保育士が行うが、同時に、栄養士・調理師との連携や共通理解が重要であること」などの認識が強くなっていることが分かる一方で、今後の課題として「子どもたちの家庭での食事の内容や環境が把握できていない」「保育園から家庭へ食育の大切さを伝える方法」「家庭と保育園との考え方の差」などがあり、「食を通した子育て支援」には、家庭を知ることの重要性、また家庭と保育園との関係作りが大切であることを改めて認識することになりました。

②平成21年度に実施した事業と結果

平成21年度には試行的事業の位置付けから一歩進んで、加盟園である熊本子育てネット会員の64保育園・子育て支援センターに参加を呼び掛けるとともに熊本県立大学、尚絅大学、熊本農業高校の教職員と学生が参加して、産学連携による研究事業として開催することができました。20年度に実施した研修のなかから選択して実施回数を減らすことにより、参加者の負担を軽減することとしました。

第1回研修会

講演と実習 「生ごみリサイクルと野菜作り ~生ゴミリサイクルと元気野菜づくりが食を 大切に感じる心を育てる~」

第2回研修会

講演「保育園における食育とその理論」〜味覚と嗜好の形成について〜

第3回研修会

特別講演「いのち 愛おし」竹熊 宜孝 氏 (公立菊池 養生園診療所 名誉園長)

竹熊氏は「断食することによって食べることのありがた さが分かる」「飢えてこそ知る我が命」という言葉で表現 されました。それは、自分自身の体験から、飢えると生命 力が上がり、命が見えてくるということです。



「食育は小さい頃に行われるべきである。小さい頃に教わったことが、大人になってからの 判断基準となる。虫食いや曲がった野菜を避ける人が多い。それは、小さい頃に自然をみてい なかったり、生きる知恵を伝承されていないためではないだろうか。また、それがさらに次の 世代にも影響を及ぼす。そうならないためにも、幼児期における家庭及び保育園での食育は重 要である」と語られました。

講演 「生ごみリサイクルと野菜作り ~元気野菜作りから元気っ子つくりへ~」

吉田 俊道氏 (NPO大地といのちの会代表)

吉田氏「幼児期の食習慣がその後の食生活につながる」「甘いものを食べる癖をつけない、偏食しないようにするなどの基本を身につけないと、大人になって食生活を変えようとしても大変な思いをすることになる」、「土いじり等の農業体験をさせることは、単に野菜の成長過程を学習するだけでなく、食べ物の有難さ、命を頂くという意味、命の尊さを学ぶことが出来る貴重な体験である」と語られました。

第4回研修会

事例報告会「保育園における乳幼児の発達と食の関係 ~2年間の研修と実践を通して見えてきたもの~」

ワークショップ「保育園における食育の課題と展望~次年度の食育計画の作成に向けて~」

平成21年度の事業の効果および考察

平成21年度研修会は、「ワークショップ」、食と農の関わりを実感できる実習、理論を理解する講演会を実施しました。体験実習として、「食農体験施設での料理教室」「生ごみリサイクルと野菜作り」「食育を実践している保育園視察」を、また講演会として「保育園で進める食育の理論と実践」などを開催しました。20年度事業の中で評価が高かった「ワークショップ」「生ごみリサイクルと野菜作り」「保育園で進める食育の理論と実践」は、21年度も実施しました。課題としては野菜作りについて知識や技術不足などをどのように解決していくか等の課題が明らかになりました。

③平成22年度に実施した事業と結果

平成22年度においても、加盟園である熊本子育てネット会員の64保育園・子育て支援センターに呼び掛けるとともに熊本県立大学、尚絅大学、熊本農業高校の教職員と学生が参加して産 学連携による研究事業を継続開催しました。

第1回研修会

講演会 「家族を育てる食卓支援」 ~心を育てる・関わりを食べる食卓~ 第2回研修会

講演と実習 「食と農の体験」〜食育活動に関する現状と課題の整理〜 第3回研修会

講演会 「絵本から飛び出たおやつ子どもの夢をかなえよう」

~楽しみながら好きなものが増える子どもたちへ~

『絵本から飛び出たおやつ』

夢を叶える、食事に夢をもつ、想像力を豊かにすることを目的として、お昼寝前に調理員が 絵本の読み聞かせを行い、その絵本の中に出てくるおやつがその日のおやつになるという活動 です。



『ぐるんぱんようちえん』 作:西内 ミナミ(福音館)



ぐるんぱんのビスケット 大成功!

【参加した管理栄養士養成大学の学生の感想】

栄養面のことだけではなく、対象となる子どもたちのことを考えました。楽しい食育活動は保育士の方ならではの考えや工夫にあふれていました。自分たちが保育園児のときにも体験したかったな、きっと保育園の子どもたちは嬉しいし、楽しいだろうなと本当に心から思いました。また、食育は対象であるヒトを思ってこそ成り立つということを改めて学ばせていただきました。

人生の先輩として南先生にとても感銘を受けました。保育園での食育についての新しい取り 組みを考えたり、実際に実行するという積極的な姿勢や、自らも楽しんで活動する姿勢はとて も魅力的で感心しました。自分たちも日ごろの勉強や取り組みで見習いたいと思ったし、大学 を卒業し、就職してからも南先生のように何事にも積極的に打ち込みたいと思いました。

今回の子育て支援の研修会に参加して、保育園を通しての世間での食育活動に触れることができ、社会人の先輩の仕事に対する熱心な姿勢を学ぶことができ、とても貴重な経験になりました。これからの自分たちの活動や行動に確実に反映していきたいと思います。

第4回研修会

講演会 「メディアに惑わされない食生活」~フードファディズムとメディアリテラシー」

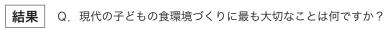
3. 保育園における食の実態調査(概要)

平成22年度において、「家庭」「保育園と家庭」「保育園内(職種)」並びに「子育て支援プログラムへの参加の有無」による食育に関する考え方、食意識および食行動の違いを明らかにすることを目的として、熊本子育てネットに加盟している熊本県内の51保育園に対してアンケート実施しました。各保育園でのアンケート対象者は、園長1名、保育士3名、管理栄養士または栄養士1名、調理師1名、並びに保護者30名(5歳児の保護者15名、4歳児の保護者15名)の計36名で、全体で1,836名を対象としました。最終的に40保育園から回答を得ました(回収率78.5%)

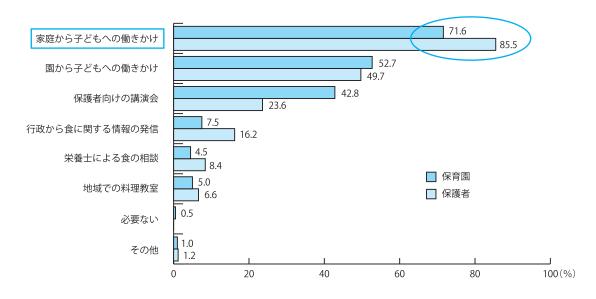
食に対する意識について

表―1によると、子どもの食環境づくりについて保護者も保育園も家庭からの働きかけが大切であると考えています。このことから、保育園内における食育活動を充実させていくだけで完結するものではなく、家庭と連携し、必要な時には家庭における食育活動を支えながら進めていくことが求められていると考えられます。

表一1 Q. 現代の子どもの食環境づくりに最も大切なことは何ですか?



対象:保護者、保育園



保育園へのアンケートから見えてくること

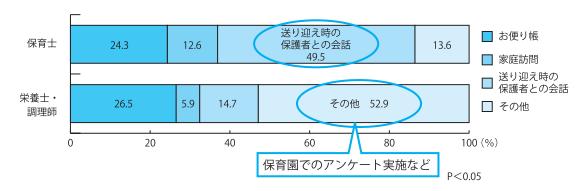
表-2では、園児の家庭での食環境をどのように把握しているかを問いました。「少し把握

している」という回答が多数で、6割強でした。職種としては保育士の方がよく把握している 半面、栄養士・調理師が「把握していない」との回答が約3割、「あまり把握していない」を 加えると約6割が園児の家庭のことを把握できていないという現状が分かりました。また、保 育士が直接保護者との会話から情報を得ているのに対して、栄養士においてはアンケート等に よる間接的な把握となっていることも分かりました。平成20年度の研修会でのワークショップ でも明らかになったように、保育サイドと給食サイドの連絡連携の在り方が一つの課題である ことが明確になってきました。

表一2 Q. 園児の家庭での食環境をどのように把握していますか?

結果 Q. 園児の家庭での食環境をどのようにして把握していますか?

対象:保育園



保護者へのアンケートから見えてくるもの

表一3で見るように、現代の保護者の子育てに関する食の情報源は、祖父母との同居の有無に関係なくメディアであることが明らかになりました。保護者は祖父母や隣近所という人から人という情報の取得方法から、テレビやインターネット、雑誌など各種のメディアを経由した方法で情報を得ているということが分かります。しかし、マスメディアからの情報は常に商業ベースであり、家庭で必要としている真の情報とは異なることがあることに留意する必要があります。

保護者の情報源の2番目が保育園だったことから、保育園からの情報提供が子どもの発達段階や状況に合わせながら、必要な時期に必要な内容で行うことができるのなら、非常に有効だと考えられます。しかし、子どもの家庭に身近である保育園による確かな情報の提供を行うためには、保育者自身が子育てや食育に関する確かな知識や技術を学ぶことが必要となります。

表―4では、保育園の食育活動の情報源として8割以上が保育園からのお便りとなっています。確かな情報を保護者に伝えていくためには、保護者と保育園がお便りを活用して情報交換を活発に行うことが大切であることが分かります。家庭と保育園を繋ぐメディアとして、「お便り」のさらなる充実と活用が課題となるのではないでしょうか。また、保護者の食育活動の

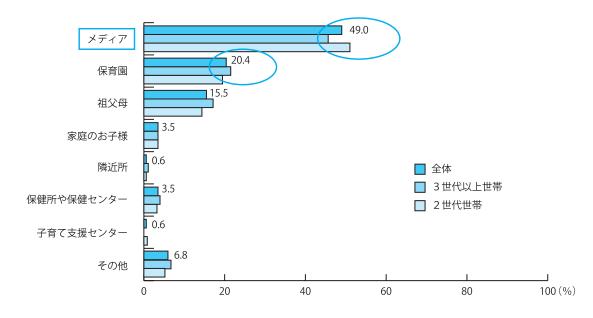
情報源が「お便り」の次に「子どもとの会話」という結果が得られたことから、園児が家庭で食育についての会話が多くなるように、保育園で園児に対しての食育活動を積極的に行うことも大切であることが分かります。また、保育の中で食育を進めるにあたり、園長、保育士、栄養士(管理栄養士)、調理師それぞれの職員が専門性を活かし情報交換を行うなど、連携して食育に取り組むことが必要であります。

表一3 Q. 子育てに関する食の情報源は何ですか?

Q. 子育てに関する食の情報源は何ですか?

対象:保護者

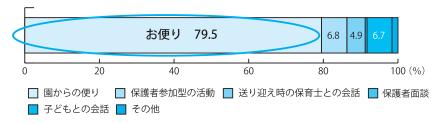
結果



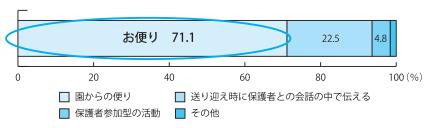
表―4 Q. 保育園の食育活動の情報源は何ですか? 保護者に対する食育活動の働きかけ方法は何ですか?

結果

対象:保護者 Q. 保育園の食育活動の情報源は何ですか?



対象:保護者 Q. 保護者に対する食育活動の働きかけ方法は何ですか?



プログラム参加者の行動変容と効果

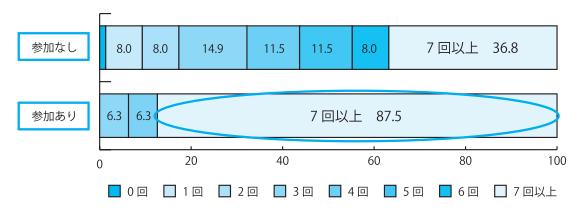
表一5の結果から、子育て支援プログラムのような研修会に参加することにより、子育てに関する食の情報交換や体験の場を得、これが食育活動に積極的に取り組む姿勢へとつながり、行動変容することがわかりました。このことから、保育者の知識や技術の習得のために子育て支援プログラムのような研修会の開催が、非常に有効であると考えられます。

子育て支援プログラムの活動に参加したことがある保育者(参加あり群)と、参加したことがない保育者(参加なし群)で比較したところ、参加あり群は、各保育園での1年間の食育活動の実施回数は「7回以上」87.5%で、参加あり群が参加なし群(36.8%)より有意に高くなりました。また「常に、毎日が食育」という回答もありました。

表一5 Q. 1年間の食育活動数は何回ですか?

| **結果** | Q. 1年間の食育活動数は何回ですか?

対象:保育園(子育で支援プログラム活動への参加者と不参加者による比較)



4. まとめ

我が国で現在行われている子育て支援では、日常の生活における自然体験や食の活動を直接体験・経験することによって、暮らしを営む力、ひいては子育てをする力をさらに伸ばすための子育て支援が必要であるという意識は低いようです。また、それらを支援する担当者である子育て支援センター或いは母体となる保育園の保育士自身の様々な生活体験の有無やその質が、支援事業の計画立案さらにはその成果に大きく影響することになります。

平成20年度からの3年間にわたるプログラム開発事業では、研修に参加した保育園での食に対する意識の変化を見ることができました。「食はすべての基礎となる」「子どもとともに体験することの大切さ」「食育計画は保育士が行うが、同時に、栄養士・調理師との連携や共通理解が重要であること」などの認識が強くなっていることが分かります。

一方で、「子どもたちの家庭での食事の内容や環境が把握できていない」「保育園から家庭へ

食育の大切さを伝える方法」「家庭と保育園との考え方の差」などがあることも明らかになりました。今後さらに「食を通した子育て支援」をするためには、それぞれの家庭を知ることの 重要性、また家庭と保育園との関係作りが大切であることが確認できました。

さらに、家庭でも食の体験・経験が少なくなり、様々な課題を抱えていることが分かります。 家庭で得られる様々な食の情報はマスメディアからの情報が大半であり、子どもの成長発達に 適した情報、真に必要な情報を得ることができにくい状況であることが分かります。

子育て支援の先行きが展望しにくい中にあっても、保育園或いは子育て支援センターなどに おいては、今後さらに有効な子育て支援の方策を模索することが求められています。その中に は、自らが食育活動などの直接体験・経験を積みながら、体験活動を通した子育て支援プログ ラムを計画していくことも求められていると思います。

しかし、各個別の保育園や子育て支援センターだけでは新たな支援プログラムの研修など、 学びの場を持つことはなかなかできません。新しい子育て支援の技術を高め合っていくには、 地域の保育団体或いは子育て支援センターの組織が必要になるのではないでしょうか。

詳しいことは、熊本県地域子育て支援センター連絡協議会(通称:熊本子育てネット)まで お問い合わせ或いはお尋ねください。